（タスマニア 8）　　**ロンセストンの街**

ロンセストンはシェフィールドから東に約 100km 移動した所にあるタスマニア北東部では最大の町である。地図を見れば内陸部であるが、海からの入り江が付近まできているし、三本の川の合流点になっているので貿易のための港も備えている場所である。

写真を見ればわかるとおり、いかにも英国の都市を思わせる建物が並んでいる。オーストラリアの中ではシドニー、ホバートに次ぐ三番目に古い町で、19 世紀前半に英国の田舎風に作られたと言われている。オーストラリアの多くの町にある様に同名の町が英本国のコーンウォール州にある。人口は 10 万人弱と資料にある。公園も多いらしく、ガーデンシテイと呼ばれているが、自分は次の予定地へ行く予定があって一泊しかしていないので、公園や河岸まで廻れなかったが古い建物とフロンテアな街並みがあって興味深い所であった。

町の中心部には古い建物が多く、近代的な高いビルがないこともあって、歩いていると英国の町にいるような感じがする。

教会も良く見かける。その中で一番古そうなのが上の写真の建物であった。赤い石造りが印象的である。人口が少ない町で車も少なく、人通りも歩いた時間帯の為かまばらだった。全体的に落ち着いた、居心地の良さそうな町並みである。

中心街はそれほど広くない。少し離れると庶民の生活の場がある。宿泊したホテルがその近くにあったので自由時間に歩いてみた。

アーケードのある商店街、色んな専門店があって、普段の買い物はこんな所で済ましているようだ。

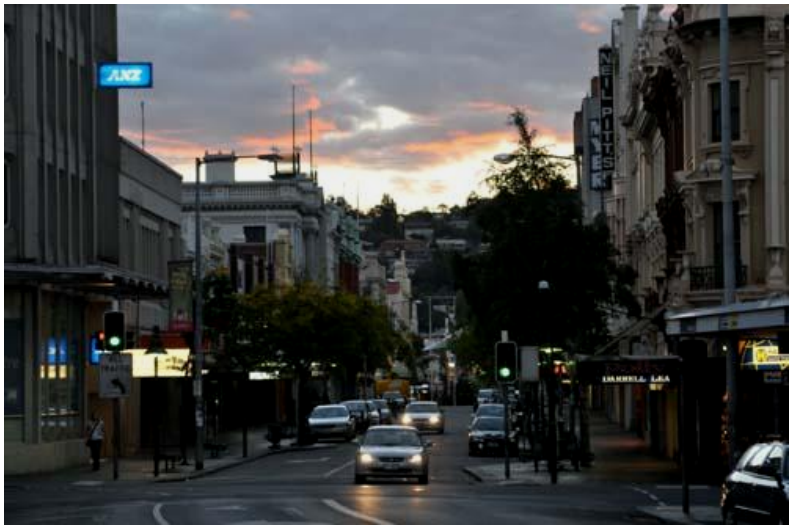
右の写真は左から金融業、チョコレート店、クリニックになっている。店が閉まっているが、これは散歩しているのが遅い時間であるからだ。この時季ここの日の入りは夜の 9 時近い。

左の写真はホテルで、右がこの町に一軒しかないスーパーの前で見た（COLES はスーパーの看板）いかにもフロンテア時代の面影をのこしている建物だ。

左の写真の店は食料品店でここは比較的遅くまで開いている。ちょっとした食料品やお惣菜があって、コンビニみたいなところだ。

町外れでビール工場を見つける。小さい。地方の酒造所というところだ。作業所がガラス張りになっていて発酵タンク等の設備が見える。この規模だと地元、及びタスマニアで飲まれている地ビールの醸造所というところだ。

ホテルの近くの通りを歩いていたら、人が集まっている場所があった。パブである。ちょうど金曜日の夕方である。仕事帰りのサラリーマンが仲間同士で談笑しながら飲んでいる。上の二枚の写真は同じ場所を角度を変えて写したものだが、人が次々に集まってくる。室内で飲んでいる人もいるし、道路にはみだしたテーブルで飲む人たちもいるし、立ち飲みしている人も多い。あいにく一緒に散歩したのが酒を飲めない男だったので、遠慮したが、自分一人だったら、仲間入りして、あの地ビールを賞味したのにと残念に思っている。



この時季（12 月下旬）緯度の関係から夜、なかなか暗くならない。日の入りが 9 時近くだが、晴れていると空はまだ明るい。街は明かりも少なく、けばけばしいネオンも少ない。人通りも殆んどないが気持ちよく、安心して散歩が出来る。こういう都会の夜もよいものだ。

郊外の住宅団地の一般住宅も緑に囲まれていていかのも英国風な造りになっている。屋根の真ん中にある煙突は暖炉のものだろうが、実際に現在も使っているかどうかはわからない。ただこういう構造になっている家が多い。

ロンセストンは歴史の古い街並みが残されているガーデンシテイとしてオーストラリア本土の観光客に人気があるようだ。シドニーか。メルボルンからここにきて宿泊し、クレイドルを代表する山岳や海岸のトレッキングを楽しむ人が多いとガイドの話である。